

VOL. 133

アフガニスタン：
地震被災者支援事業
ウクライナ：
人道支援事業
世界のADRAから

世界がわかる。ADRAがわかる。

ADRA

EST.1985

News

2022
9



食料危機に重ねて地震被害。
アフガニスタンで命をつなぐ
支援を届けます。

深刻な食糧危機に加え、地震被害にも見舞われたアフガニスタン
(写真は2021年10月にバーミヤン県で撮影)



※今号のADRA Newsは公益財団
法人ウェスレー財団様の助成を
受けて発行しております。

ADRA Japan 事業マップ

ADRA Japanは、約120の国と地域に支部を持つ世界最大規模の国際NGOであるADRAの日本支部です。人種・宗教・政治の区別なく支援活動を行うことをモットーに、海外および日本国内の各地にて様々な活動を行っています。



UKRAINE ウクライナ

人道支援事業

→ p.6-7



ZIMBABWE ジンバブエ

教育環境改善支援事業

ゴクウェ・ノース地区の教育環境を改善するために実施してきた3年間の支援事業が、無事に完了しました。6月末には、事業で建設した教室、職員住宅、職員棟を引き渡すセレモニーを開催しました。住民と子どもたちは今後新たな学習環境で学ぶことができる喜びを、歌やダンスを通して披露しました。今年4月からはゴクウェ・ノース地区の隣にあるニャミニャミ地区で、多くの子どもたちがより良い環境で教育を受けられるよう、新規の教育支援事業をスタートしています。



学べる喜びをダンスで表現する子どもたち

● ADRA Japan 実施事業

■ 世界のADRA支部がある国と地域

YEMEN イエメン

農業復旧支援事業

紛争が激化してから8年、イエメンでは社会混乱が長期化し、特に脆弱層である高齢者や女性、子どもが危機的状況にあります。さらに、ウクライナ紛争の影響で食糧輸入価格が上昇しているため、大多数の住民がいつ飢餓状態に陥ってもおかしくない状況です。ADRAは灌漑を修復して農業生産を再開するための事業をこの秋から開始します。



耕作地の調査



AFGHANISTAN アフガニスタン

地震被災者支援事業

食糧危機支援事業

→ p.4-5



ETHIOPIA エチオピア (南スーダン難民支援)

ガンベラ州のクレ難民キャンプにおける衛生事業

衛生環境悪化を防ぐ、各世帯のトイレと水衛生環境を改善する事業は無事終了しました。皆さまからの温かいご支援ありがとうございました。しかし、クレ難民キャンプでは難民の流入が続き、2020年11月から1年半で約5,000人増加しています。キャンプ内の環境改善対策が必要のため、9月からは難民へのトイレ建設技術研修、新規の難民に向けた衛生啓発などの新たな衛生事業を実施します。



クレ難民キャンプ内の学校に設置した手洗い場

NEPAL ネパール

教育支援〈ナマステ基金〉事業

スポンサーの皆さまの温かいご支援のもと、昨年度の12年生は全員卒業することができました。コロナ禍の影響が残る中、5月から新学期が始まっています。引き続き、スポンサーの皆さまと共にADRAは、学習の継続が困難な子どもたちに、教育を受ける機会を提供していきます。



夢を実現するために勉強に励む子ども

MYANMAR ミャンマー

教育および緊急支援事業

少数民族が多く住むカレン州は教育の整備が遅れている地域ですが、2021年2月以降情勢が悪化し、現在も不安定な状況です。そのような中、ADRAは現地スタッフの安全を確保しながら、文房具配付、水タンクの設置、校舎建設など、できる限りの教育支援に取り組んでいます。

JAPAN 日本

防災減災事業

災害は、近年いつどこで発生してもおかしくない状況にあります。そのような不測の事態に備えて、ADRAは各地で防災減災に関する講演を行い、発災時の被害を少なくするための活動をしています。



新宿区社会福祉協議会で実施した災害ボランティア講座

PHILIPPINES フィリピン

台風被災者支援事業

2021年12月の台風によって甚大な被害を受けた西ネグロス州で、家が全壊した208世帯の家屋を修復する事業を行い、2022年7月末に完了しました。経験豊かな大工さんの指導のもと、被災した住民自らが修復作業を行い、思いの工夫を凝らした家になりました。



工夫を凝らした家



事業譲渡式にて

VIETNAM ベトナム

異文化の中で働く難しさを緩和し、家族を支える働き世代をサポートする労使関係改善のための文化的教育事業

日本で働くベトナム人は、今や日本で欠かせない労働力ですが、母国と異なる慣習や労働環境のため、多くの労使問題が発生しています。現在、少しでもこの問題が軽減されるよう、日本の環境・職場に適應するためのアドバイスが書かれたハンドブックを作成しています。



日本で働いたことがある、働きに行こうとしている方々による意見交換会



ご紹介している事業は皆さまからのご寄付のほか、以下の機関・団体から助成や支援を受けて実施しています(以下敬称略)。
● 日本NGO連携無償資金協力 (ジンバブエ、アフガニスタン、ミャンマー)
● 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム (フィリピン)
● 公益財団法人イオンワンパーセントクラブ(ミャンマー)
● 公益財団法人トヨタ財団(ベトナム)

● ADRA International (世界本部)

ADRA JAPANの活動

AFGHANISTAN アフガニスタン



地震被災者支援事業

食料不足が深刻なアフガニスタンで地震発生。支援を必要としています。

アフガニスタンでは、経済の停滞と干ばつの影響により、深刻な飢餓、栄養失調、飢饉のリスクが高まっており、アフガニスタンの人口の半数以上に当たる約2,440万人が人道危機に直面している状態です。2022年半ばには人口の97%が、命をつなぐために必要なものを十分に手に入られなくなる恐れも指摘されており (UNDP 2021)、もしも十分な支援が届かない状態が続くと、毎日112人の子どもが命を落としてしまう事態になるとも言われています (UNICEF 2022)。

この状況に加えて、2022年6月

22日にマグニチュード6.1 (※1) の強い地震が発生しました。震源に近いアフガニスタン東部の地域では1,000人以上が亡くなり、2,000人以上が負傷しました。さらに、1,800棟以上の家屋が倒壊しました。(※1 欧州地中海地震学センターによる発表値)

ADRAがスタッフを派遣して現地調査を行ったパクティカ県ガヤン地区では、約600棟が倒壊し、多くの方が犠牲となりました。その背景には、泥レンガで、きちんと設計されていない家が密集して建っていたことがあり、今後倒壊のある危険が確認された家屋も

2,500棟以上に上っています。また、この地域はもともと診療所や学校も少なく、携帯電話もつながりにくい所です。乾燥化が進んでおり、水不足にも悩まされてきました。そこへ地震の被害が重なり、食料へのアクセスがさらに限られています。

被災された方の生活と尊厳を守るために、今、食料や衛生用品の支援物資の配付や、テントなどの仮設住居や住居の修復、医療支援などが必要とされています。ADRAは其中でも、最も緊急性が高い支援として食料支援を開始する準備を進めています。

今、必要な食料支援

人道支援で守るべき最低基準 (スフィア基準) によると、食料危機が起きている現場で配付すべき食料の量は、1人あたり1日2,100kcal分です。アフガニスタンの平均的な家族である7人家族が1か月、食べつないでいくためには、441,000kcalを確保する必要があります。食料に換算すると以下の通りで、この食料を確保するの

に1か月約80USドルが必要です。

今のアフガニスタンの危機的な状況では、6か月分の食料支援が必要とされていますが、資金的な制約があるため、ADRAでは、まず3か月分の食料支援を計画しており、特に支援が必要な世帯を対象に配付する予定です。活動資金が許せば、命をつなぐ支援の手を拡大して届けたいと考えています。

支援を届ける世帯は、ADRA Afghanistan (アフガニスタン支部) が中心となり、支援の必要度を数値化できる指標を用いて選定します。家族構成や、住まいなどの状況、経済力など、一つひとつの世帯の状況をよく判断し、支援が必要な方々に寄り添った支援を届けていきます。

アフガニスタンの家族が1か月命をつなぐのに必要な食料支援 (例)

- ・小麦粉 89kg
- ・お米 21kg
- ・油 7リットル
- ・レンズ豆 9kg
- ・塩 1kg =約80USドル

これまでのアフガニスタン支援

ADRAはこれまで20年に渡り、アフガニスタンにおいてさまざまな理由で家を失ってしまった方への食料やシェルター支援のほか、寒い冬を乗り切るための越冬支援、子どもたち (特に女子) の教育環境を整える学校建設支援や啓発活動等に取り組んできました。2021年8月の政変以降も、刻々と変わる現地の状況に対応しながら、現地での活動を継続しています。



食料配付支援 (2018)



学校の完成を喜ぶ女子生徒 (2017年)



1軒ずつ聞き取り調査をするADRAスタッフ



レンガの家は地震で跡形もなく崩れてしまった

家が倒壊した家族は、青空の下にベッドを出し生活している

担当者の声



事業部マネージャー兼アフガニスタン事業担当の杉本です。ADRAは国際社会がアフガニスタン国内での支援活動を開始した2002年から教育への支援を続けています。特に、長年教育を受けることへの制限があった女子の教育に力を注いできました。

それには、まず (女子の) 学校の校舎を建てる、トイレや水回りを整える、学校を安全な場所にするために、校舎とトイレなどの設備の周りを囲む外周壁を造るなど、女の子たちが安心して学ぶことができ、そして保護者も安心して学校へ送り出せる、包括的な学習環境を整えてきました。

昨年、暫定政権に代わってからの建設工事は以前のように進まず、現地に関わるスタッフも大変な思いで完成に向けて努め、2022年6月、新たに2校の校舎とその周辺設備が完成しました。過去一番の厳しい状況の中で学校を無事に引き渡すことができたときには、一同揃って感極まる思いでした。

アフガニスタンで建てた学校の総数は21校となり、36,000人以上の子どもたちの笑顔につながる支援を届けることができました。

以前、住んでいたこともあるアフガニスタンは、私にとって思い入れの強い国の一つです。皆さまからのご支援のもと、教育支援に取り組んでこれましたことを心より感謝いたします。

しかし、アフガニスタンの状況は今も落ち着いていません。特に食料不足が本当に深刻で、命の危険に直面している子どもたちが大勢います。今後も、一人ひとり寄り添った活動を継続できるよう、皆さまの温かいご支援、ご声援をよろしくお願いいたします。



左/完成した学校の看板の前で笑顔を見せる子どもたち (2022) 右/学校に手洗い場ができ、大切な衛生習慣を身に着ける場にもなっている (2022)

UKRAINE ウクライナ



ウクライナ危機から半年。
命をつなぎ笑顔を取り戻すあらゆる支援に取り組んでいます。



食料セットの配付。中には小麦粉やパスタ、調味料などの食材や日用品が入っている。



物資を受け取りに来た女性が、感謝の言葉のあと、孫を失った悲しみの中で支援が支えになっていると話してくれました。

ウクライナでの深刻な人道危機が発生してから約半年が過ぎました。事態の収束はまだ見えず支援の必要が続く中で、ADRAには日々、温かいご支援が寄せられております。心より感謝申し上げます。

ウクライナでは今、1,770万人が人道的な支援を必要としていると言われており、この数は4月から200万人増えています。特にウクライナ東部や南部の地域では状況が深刻で、命をつなぐために避難を希望する人や支援を求める人が後を絶ちません。

ADRAでは、支援を必要としている方が直接助けを求められるホットラインを開設しています。各地から寄せられる避難要請や食料・水・衛生用品・薬などの支援、現金の給付、病院への医薬品

等、住宅の修繕支援、心のケアなど、一人ひとりに寄り添った支援活動に取り組み、支援を届けた人の数は700万人を超えました。この数は今日も増え続けています。

8月、ウクライナおよび周辺国を訪問し、避難所となっている場所や食料支援の現場を視察しました。食料を受け取った方たちは、目が合うと穏やかな笑顔を見せて、「ありがとう」の会釈をしてくださいました。しかし、これまでの経験についてひとたび話し出すと、その表面上の穏やかさからは想像もできない苦しさを胸に抱えながら今を生きていることがひしひしと伝わってきました。

私たちの支援は確実に届いていますが、まだ十分ではありません。引き続き、皆さまの温かいご支援をお願いいたします。

支援活動ハイライト

食料配付

食料セットや、焼きたてのパンを配付しています。これまでに、71万箱の食料セットと、757万本のパンが人々の手に届いています。



ソーシャルルート

2月以降、公共の交通機関が止まってしまった地域で、人々の避難や生活を支えるバスを40ルート走らせています。3月に生まれた孫にやっと会えた喜びの女性の姿もありました。



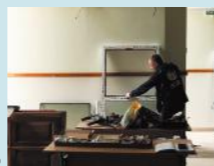
心のケア

住民の30~40%の人は心のケアが必要だといわれています。すでに4,000人以上の方が、カウンセリングを受けたり、感情を立て直す方法を学んだりしています。



冬に向けて避難所や住宅の修繕

ウクライナの冬は大変厳しくマイナス10度になる地域もあります。家や避難所の窓やドアの修繕を急いでいます。



現金給付

それぞれの家庭で必要なものを手に入れられるよう、現金の給付支援も続けています。申請に応じて審査を行い、すでに2万人以上に支援を届けています。

世界のADRAから

約120か国と地域に支部を持つADRAは、世界各地で事業を実施しています。数ある事業の中から、活動の一部をご紹介します。

CZECH REPUBLIC チェコ



物資輸送と逃れてきた難民の支援

ウクライナの状況が悪化してから、世界各地のADRA支部は、それぞれの強みを活かして、平穏な生活を奪われてしまった方々に寄り添う支援活動に取り組んでいます。ウクライナの西隣スロバキアのさらに西側にあるチェコは、大きな集配センターに拠点を設け、支援物資を集約してトレーラーに積み込み、平均して週に2回、約20トンの食糧をウクライナに送っています。この食糧は、ウクライナ国内の各避難所に送られ、炊き出しなどに活用されて、避難生活を続けている方々の食生活を支えています。また、チェコ国内に逃れてきた難民の支援にも取り組んでいます。



食料支援が満載された20トントラック



チェコ・プラハ近郊の集配センターを視察するADRA Japanスタッフ

BRAZIL ブラジル



集中豪雨によって被災した方々へ、寄り添った支援を実施

ブラジルでは、2021年12月から3か月以上断続的に降り続けた集中豪雨の影響で複数の地域で地滑りや洪水が多数発生しました。住む場所を失ってしまった方は15万人を超え、被災された方は衣食住のすべてにおいて支援を必要としていました。

ADRAは土砂災害の規模が特に大きかったペトロポリス市に大型の災害対応トレーラーを出勤させ、7,639食の炊き出しと5トン分の洗濯支援を行いました。また、食料や水、衛生用品、寝具、衣類、掃除用具のほか、子どものおもちゃなども配付し、それぞれの状況に合わせて寄り添った支援を届けました。



支援物資の荷下ろしをするADRAスタッフ



ペトロポリス市内の大規模土砂災害。100名以上が犠牲になった。

アドラのチカラ

ADRA Japanを支えてくださる方をご紹介します！



樋口晃司さん
高齢者デイサービス介護職員

—ADRA Japanをお知りになったきっかけは何ですか？

セブンスデー・アドベンチスト教会を通してADRAの活動を知りました。

—ADRA Japanとの関わりについて教えてください。

小学4年生の息子と、世界の様々な困難な境遇にある方の事を考えた時に、私達にも出来る支援を探してみようとADRAの活動を調べて、家族でADRAフレンドに参加しました。

—ADRA Japanの魅力について、ADRAと関わっていて良かったと思う時があれば、教えてください。

今まで他人事だった世界の一人一人の事を、自分事として考えるチャンスが広がって行く事。それがADRAの魅力です。

—まだADRAのことをご存じない方へのメッセージをお願いします。

確かに一人の人間の力は小さいかも知れませんが、自分のした事によって、世界に変化を感じる事は難しいかも知れませんが、自分自身には変化を感じるのです。ご一緒に自分に起きる変化を楽しんでみませんか？

—ADRA Japanへのメッセージをお願いします。

ひとりの命から世界を変える。この使命に忠実であってください。今こそ、世界は本物を求めているのです。ADRAの働きを祈っています。

色々な寄付のかたち

ADRA Japanが実施する事業へのご支援は、寄付やボランティア、お知り合いへの活動の紹介など、さまざまな形がございます。また、ご寄付に関しましても、お金でのご協力だけではなく、物品や金券によるご支援も受け付けております。

1 物品でのご寄付

お宝エイドの活動を通じた、宝飾類、ブランド品、絵画、古銭、メダル、ブランド食器、カメラ、楽器などの骨董品によるご寄付です。送料無料で、自宅まで指定の場所へ業者が集荷に伺います。



2 一回ごとのご寄付

郵便振替、クレジットカード、銀行振込等によるご寄付を常時受け付けております。支援を希望される事業のご指定も可能です。

【郵便振替】 口座番号：00290-2-34169 加入者名：(特活) ADRA Japan



3 ADRAフレンドとしてのご寄付

マンスリーサポーターとして継続的なご支援をいただくことは、事業の実施において非常に大きな支えとなります。月1,000円からお申込みいただけます。



4 自動販売機設置によるご支援

売り上げの一部がADRA Japanの寄付になる寄付型自動販売機を設置して下さる方を募集しています。必要なのは、場所と電気のみ。お問い合わせお待ちしております。



5 お買い物によるご支援

Rakutenをご利用の際、こちらでご案内のページよりRakutenにアクセスしてお買い物をしていただくと、ご購入金額の0.5%がADRA Japanへの寄付になります。



応援メッセージ

ウクライナのために何かしたいと考え、1日1万歩を目指して始めましたが、結局上を目指そうと思って、1日2万歩、3万歩を目指して、朝、夕と歩きました。歩いているときには、平和についてイメージしながら歩くことができ、クリスマスにウクライナのチャリティーコンサートをしたと企画を考える時間になりました。

(歩くことが寄付になる
PEACE WALK 参加者)

こんな時だからこそ、ずっと気になっていたジンバブエとその他の地域。READYFORのクラウドファンディングでジンバブエの教育支援を応援できるこの機会をありがとうございます。心身の健やかさを第一に、これからも草の根の支援をよろしくお願いします！併せて、いつも現地に私の思いを届けてくださってありがとうございます♪
(ジンバブエ教育READYFOR支援者)

お問い合わせ先

TEL: 03-5410-0045 E-mail: support_adra@adrajpn.org

いただいたご寄付は税制優遇の対象となります。

ホームページ: <https://www.adrajpn.org/>



ADRA Japanは「人間としての尊厳の回復と維持」を実現するため、キリスト教精神を基盤として、人種・宗教・政治の区別なく世界各地で国際協力活動を行っています。

ADRA News 133号 2022年9月1日発行

発行人 青木 泰樹
発行 特定非営利活動法人 ADRA Japan (アドラ・ジャパン)
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
TEL: 03-5410-0045 FAX: 03-5474-2042
E-mail: support_adra@adrajpn.org
Facebook: adrajapan Twitter: ADRA_Japan
Instagram: adra_japan

団体概要

法人名 特定非営利活動法人 ADRA Japan
所在地 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
(JR原宿駅 徒歩5分、東京メトロ明治神宮前(原宿) 駅 徒歩2分)
代表者 柴田 俊生 (理事長)
事務局責任者 青木 泰樹 (常務理事/事務局長)
創設年月日 1985年3月30日



ADRA

デザイン: 細山田デザイン事務所